

番号	上の句	下の句	作者
81	あのひみたたまのおたえんとうたうきみ あの日見た玉の緒絶えんと唄う君	だれがためにうたうのだろう 誰がために唄うのだろう	湧々
82	ねむるときおきてるときもおもいだす ねむるときおきてるときもおもいだす	しきおりおりのまちのふうけい 四季折々の街の風景	どっかの斉藤
83	たびやすみきりのかかったやまのうえ たび休み霧のかかった山の上	みるころはおだやかなるや 見る心は穏やかなるや	Ten
84	めのまえにさつとひろがるだいしぜん 目の前にさつと広がる大自然	とかいのぼくはきぶんそうかい 都会の僕は気分爽快	迷鉄名古屋
85	たびがすきしんかんせんにのれるから 旅が好き新幹線に乗れるから	ほかのろせんものつてみたいな 他の路線も乗ってみたいな	たいよう
86	どこにいくねつとをひらきかんがえる どこにいくねつとをひらきかんがえる	このしゅんかんがいちばんたのしい この瞬間が一番楽しい	逢奈
87	あさおきてばんやけるおといいにおい あさおきてパン焼ける音いい匂い	いつものじゃむといつものみるく いつものジャムといつものミルク	はーる
88	おにごっこしてるこどものしんちようが おにごっこしてる子どもの身長が	すこしのびててえみがこぼれる 少し伸びててえみがこぼれる	きらり殿
89	どうしようこまったときはきずなんで どうしようこまったときはきずなんで	そうだんすればたよれるみんな 相談すれば頼れるみんな	ゆゆ子
90	あなたのねおなやみすべてこたえるよ あなたのねお悩みすべて答えるよ	あなたのしかいははれはれしている あなたの視界は晴れ晴れしている	ゆき